

東京リスマチック 株式会社

●代表者/代表取締役 鈴木 隆一 ●創業/1972年11月 ●従業員数/1557名
●所在地/東京都荒川区東日暮里6-41-8 ●URL/www.lithmatic.net

すべての仕事を一元化

顧客の利便性を追求していく



鈴木取締役



福田氏

都内に9つの店舗を展開している東京リスマチック(株)は、19ものグループ企業の純持株会社である(株)日本創発グループ(鈴木隆一社長)の中核企業で、店舗に加え5つの製造拠点を持つ。東京リスマチックでは、富士フィルムグローバルグラフィックシステムズの「XMF」を3台並列体制にし、その処理能力でグループ企業内の印刷物制作を支えている。

同社が「XMF」を導入したのは2014年7月だが、同社の受注から製造までを担うインフラということもあり、導入検討は1年前から行っていた。最終的に「XMF」導入を決定付けたのは「Remote」であった。同社の場合、各グループ会社からの入稿や営業

担当が受注した案件を店舗で集約しているため、拠点・商品毎でワークフローに微妙な差異があった。このため、各拠点内では最適化が図れていたが工場と連携するには更なるデータ運用の効率化が求められていた。

「『Remote』を使えば、工場サイドと各営業拠点が一つのワークフローで繋がるため、データの取り違えがなくなる。さらには、工場から仕事の進捗状況も見えるなど、多くの利便性を得られると感じた。また、導入検討当時、新工場の建設もあり、会社の将来を見据えたときに、ワークフローの一元化は大きなテーマだったが、これに対して『XMF』によるセンター



一元化で作業がシンプルに

RIP運用は当社の構想にマッチしていた」と同社の鈴木俊郎取締役は導入の理由を語る。

同社としてはセンターRIPとして「Remote」と「Complete」を据えることで、営業も仕事の進捗状況が見えるし、工場もリアルタイムで仕事の状況が見え、的確な作業計画が立てられるのである。つまり、多種多様な案件に対応する同社で、営業拠点と工場の距離を意識することなく仕事の管理・進行ができることに大きな可能性を見出したのである。

さらに、「Remote」は営業拠点と工場間だけでなく、お客様との連携にも活用できると考えたという。Remoteを使ってお客様がデータを直し、初校、再校をWeb上で確認し校了できることで、お客様のメリットになるし、営業の負担も減るという。

同社では「XMF」導入後、商品毎に多数存在していたワークフローを一元化した。「センターRIPである『Complete』を導入し、今では殆どの仕事が一元化できている。今でも工場側ではオフセット、シール、POD、特殊印刷など、その商品毎に製造工程が分かれているが、『Complete』のテンプレート設定は自由度が高いので、多様な工程にも対応できた。テンプレート内に適切な設定がされているので、店舗の作業担当者はテンプレートを選択すれば仕事を流せるようになった。以前のフローでは考えられないことだ。」同社情報システム課の福田敏行氏は語る。

「Complete」の導入により当初想定していなかった効果もあったという。

「PDF生成のためのRIP演算、プルーフ出力、面付けアプリなど複数のソフトを介していたが、XMFワークフローではそれが集約された。さらに、営業拠点ごとに複数あったアプリケーションの設定値が、『Complete』では設定情報も一元管理できるた

め、営業所間、担当者間の統一ができたことは非常に大きい」と福田氏は語る。

同社のプリプレス工程は、XMFを使うことで短納期対応ができる。さらには、印刷工程との連携も図ることで、ジョブ数が増えてもミス・ロス削減の向上を図ることができたのである。

また、お客様の利便性を追求してきた同社にとって、商品やサービスの拡充を図っていくことと同時に、営業力強化は非常に重要だという。お客様との「フェイス・ツウ・フェイス」でのコミュニケーションを行うことこそが、同社の強みだという。「Remote」を活用することで、プリプレスの社員がお客様とコミュニケーションできるようになり、データのことを一番分かっている人間が、お客様にデータ上の最適な提案を行えるようになる。さらには、営業も、本来営業が力を入れなければならない役割に邁進できる環境が整う。これこそが「お客様に負担をかけず、お客様の利便性を追求」する同社の想いにつながるという。

このようにお客様の利便性を一番に考えて事業を展開する同社グループは、積極的なグループ共創を進めている。「日本創発グループには、それぞれ独自の強みを持っている会社が結集している、これもお客様の利便性を追求していった結果と考えている。今までも、そしてこれからも、お客様が欲するものを考え、提供、あるいは提案できることを目指している。XMFも、クリエイティブプラットフォームとして、いかにお客様にソリューションを提供できるかが重要であり、そのために多大な時間をかけて導入した。今回のワークフロー導入は、当社の歴史の中でも、大きな決断であり、大きなポイントとなるだろう。」と鈴木取締役は話してくれた。